

大木町における総合評価方式の取り組みについて

平成 20 年 12 月 25 日：福岡県大木町総務課

1、はじめに

大木町は、福岡県の南西部に位置し、九州の穀倉地帯筑後平野のほぼ中央にあります。福岡市から西鉄天神大牟田線を利用すると約 1 時間、車で九州自動車道（八女インターチェンジ）を利用すると約 50 分の距離にあります。

温暖多雨の穏やかな気候にくわえて、町全体が標高 4～5m のほぼ平坦な理想的な田園地帯となっています。また、町の総面積の約 14% を占めるクリーク（掘割）が、町全域を縦横無尽に張り巡らしており、その歴史は荘園時代にまで遡るほど、かつてから日本屈指のクリーク地帯です。

また、人口 14,557 人で、主要産業である農業においては水稻のほか、いちご、えのき、しめじの生産が盛んです。

2、総合評価方式の導入経緯

当大木町の入札形態は、平成 19 年前期まで「指名競争入札」と「随意契約」のみでしたが、平成 19 年より公正な競争を促進し、不正行為を排除するべく入札制度改革に取り組み、同年の後期発注分からまず指名選定のあり方について郵便入札等の導入により競争性・匿名性の向上を図りました。さらに、原則すべての入札に付する建設工事等について（条件付き）一般競争入札を取り入れ、競争性をさらに高める取り組みを行っています。平成 19 年度中の前・後期の落札率を見れば、10 ポイント強の下落となり、一定の評価を得ることとなりました。

しかし、地元建設業界にとっては常に域外業者との価格競争であり、大規模公共事業の減少も相まって厳しい状況となり、入札改革とはある意味相反する「地元産業育成」の命題を同時に担う事となり、総合評価方式の試行に新たに取り組むこととなりました。平成 20 年度は簡易型 2 件、特別簡易型 3 件をすでに試行し、今後の発注・入札のあり方について模索を続けているところです。

3、総合評価方式の導入結果

町内の業者には「総合評価方式は、より良い質の施工を追及する町内業者にとって有利な入札形態である」旨、徐々にではありますが、理解が深まってきており「良質な施工業者の育成」という、発注者側の目的に対する有効なツールとして期待が高まっているところです。

4、最後に

良い事づくめのようなようですが、総合評価方式にも課題はあります。工事の難易度や技術レベルの違いがある中、どの辺までが総合評価実施の境界となるか、また、点数の設定は適当なのか、得点 1 点の重みは適正か、逆転現象はどの程度が適正と言えるのか、さらに増大する事務量について、その価値をこの新しい入札制度は有しているのか、等々実際に入札執行する中で、いろいろと見えてきました。それでも私たちは良質な業者を競争のなかで育てていくべく、試行を積み重ね、データを蓄積し、さらにその検証を今後も積極的に続け「大木町版総合評価方式」を確立させていきたいと思っています。